



みなさんこんにちは！ARC活動レポート2012年6月号をお送りいたします。最近、梅雨の季節がすこしずつ近づいていますね。今回は、ARCが今取り組んでいる教育支援と公衆衛生事業、それから、この3月にベナンに滞在していたARCインターン生の滞在記を紹介します。

◆ARCはどんなことをしているの？

今回はARCが現在行っている活動の、**ルワンダ子ども支援基金** と **公衆衛生改善プロジェクト** について紹介します。

★ルワンダ子ども支援基金

ルワンダでは1994年に虐殺が起こり、たくさんの人が殺され、多くの子どもが戦争孤児となりました。また、エイズで親を亡くした子どももたくさんいます。

ARCは現地の孤児院である、ギシンバメモリアルセンターとの協力によって、ルワンダの子どもたちへの教育の支援や生活面での支援を行い、ルワンダの平和構築をサポートしています。この支援は主に資金面での支援です。学費や学用品、制服などに充てられています。ギシンバメモリアルセンターには、幼稚園児4名、小学生42名、中学・高校生67名、大学生4名がいます。この3月にARCのスタッフの今井ひなたが現地滞在中、調査とインタビューを行ってきました。今回はそのうちの5人へのインタビューを紹介したいと思います。

きいた内容

- | | |
|--------------------------|-------------------------|
| ① いつからギシンバメモリアルセンターにいるのか | ④ ARCの支援はどのような影響をもたらしたか |
| ② ギシンバメモリアルセンターに来た背景 | ⑤ 将来何になりたいか |
| ③好きなこと・趣味 | |

●Walda Marcelline 女 19歳 高校3年生

- ① 1998年
- ② 両親が亡くなり、隣国から移住
- ③ 映画を観ること
- ④ 良い環境のもとで勉強ができるようになった。
- ⑤ 政治家になりたい。省庁で働きたい。

●Valentine Nyirabatuntun 女 19歳 高校3年生

- ① 1997年
- ② 両親が亡くなる
- ③ バasketボール
- ④ 将来、大学で勉強するチャンスを与えてくれた。
- ⑤ キャリアウーマンになりたい。

●Jean Ntawakirasongwa 男 19歳 中学3年生

- ① 1995年
- ② 両親が虐殺の際に殺される
- ③ サッカー
- ④ 将来、大学で勉強するチャンスを与えてくれた。
- ⑤ 自分でさまざまなことを創造できるようになり、人生を豊かにしていきたい。

●Afissa 女 11歳 小学3年生

- ① 1995年
- ② 父親が亡くなり、母親が育児放棄(アルコール中毒)
- ③ バレーボール
- ④ 支援のおかげで孤独ではなくなった。孤児院ではたくさんの子どもたちと遊べるし、洋服もある。学費もある。
- ⑤ 人のお世話をするのが好きだから、看護師になりたい。

●Irasukunsa Denise 男 13歳 小学5年生

- ① 1995年
- ② 父親が亡くなり、母親が育児放棄(原因不明)
- ③ サッカー
- ④ 学費や服が得られた。食べ物も食べられるようになった。
- ⑤ 医者になりたい。



★公衆衛生改善プロジェクト



ルワンダの首都キガリから車で約30分ほどにあるキゲセ地区に唯一あるクリニックでは、水道管が設置されてはいますが、開通しておらず、水をタンクで購入し、経費がかさんでいるという問題が生じていました。また、水道水で手を洗うだけでも、多くの寄生虫の媒介を予防することができます。こうした問題から、この事業では、このクリニックの水道管を開通させることを目標としています。

このクリニックはもともと USAID(アメリカ国際開発庁)が支援し建設したものです。そのほかにも例えば国連の Global Fund がルワンダ保健省と提携しワクチンなどを提供し、またスペインの教会により水道管が設置されています。聞けば多くの支援が入っているように感じますが、しかし一つ一つが連携しておらず局所的であり、また定期的な調査や管理が行われていませんでした。



現在、このクリニックでは HIV、マラリア、結核の検査及び治療、ファミリー・プランニング、ワクチン、妊婦の看護、そしてあらゆる諸治療を行っています。また、最寄りの小学校の定期検診も行っています。一日に診察に訪れる患者数は平均 300 人で、それを昼夜交代制で、16 人でまわしています。もし手に負えない重症の患者がいた場合は救急車で近くの病院に搬送しますが、一回の費用は 15,000 ルワンダフランに及びます。日本円では約 2,200 円ですが、一日 1 ドル以下の生活をする人々が多いこの地域では、この金額は生活を圧迫するものです。つまり、重症になる前にいかに早期段階で病気を発見し、治療を行うかが人命を左右します。そのためにも、水道管の開通は欠かせないのです。

次回に続きます... (本文/ 御堂 祥平[インターン]) (写真/ 小峯茂嗣事務局長)



◆ベナンに行ってきました！！！！

初めまして、2月からARCでインターンをさせていただいております、大阪大学4年の森谷香純です。私はつい2か月前、たった4日間でしたがベナンという国へ行って参りました！

ベナンは、西アフリカ、ナイジェリアの西に位置する国です。以前「ここがヘンだよ日本人」というテレビ番組に出演し、お茶の間で一躍有名になったゾマホンさんの故郷、と言うと「ああ！」と懐かしく思われる方もいるかもしれません。



私にとって今回のベナン訪問は初のアフリカ上陸！ドキドキワクワクしながら降り立ったコトヌー空港で「みなさんベナンへようこそ～」と、「たけし日本語学校」の生徒さん方が温かく迎えてくれました。

今回の旅行の一番の目的は、たけし日本語学校で日本語を学習するみなさんにお会いすること。みなさんの日本語は私のフランス語とは全く比べ物にならないほどお上手で、奴隷海岸を案内してもらったり、一緒にベナンのダンスをしたりしました。

今回のベナン旅行は同じ学科の学生約20名で集まって行きました。ベナンを訪れる日本人の数は年間20人に満たないそうなので、一度に一年分の日本人が訪れたということになります。道を歩いていると物珍しそうに見つめられたり、バスから外を眺めていると大きく手を振ってくれたり…

私たちがベナンに行かなければ日本や日本人に出会うことがなかった方もいるだろうし、逆に、私たちがまだまだアフリカに対して偏見を持ってい

る部分があり、ベナンの方々の生活や体の中まで響きわたるようなエネルギーな音楽とダンス、寛容で温かい人柄など、会って接してみなければ分からないこともやはり多くありました。実際に現地を訪れ現地の方と出会い交流することの大切さ、そしてそれによって国と国、人と人の距離が近くなると

いうことを実感しました。子どもたちのいろんな表情や握手をしたときの手の感触、いろんな場面を思い出す度ベナンが恋しくなります。

(本文・写真/ 森谷 香純)



(↑「帰らずの門」この辺りから奴隷として送られたそうです。)



インターン（大阪）紹介

今年の2月からARCで広報活動を中心に行っているお2人です。2人とも大阪で活動中。今号では写真のみとなりますが、次号では自己紹介もふくめて紹介させていただきたいと思っております。

森谷香純（大阪大学外国語学部日本語学科4年）



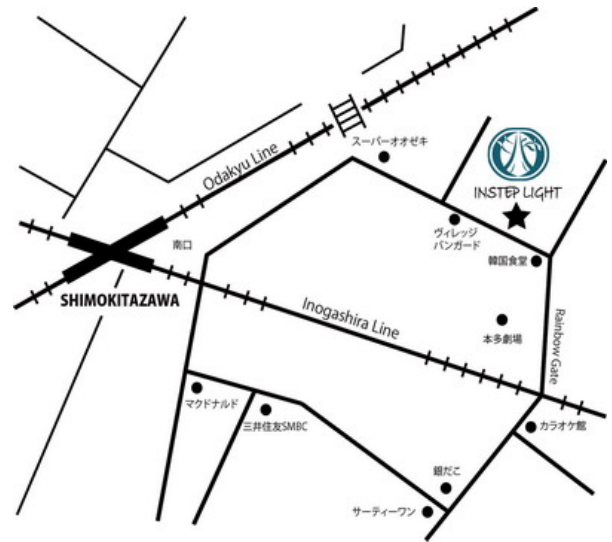
御堂祥平（大阪大学外国語学部スペイン語学科3年）



日時： 6月17日（日） 15:00~17:00
会場： ワールドカフェ&バー インステップライト

〒155-0031 東京都世田谷区北沢2-9-1 大新ビル 5F
小田急小田原線北沢駅南口徒歩2分 Tel:03-6407-0067
スピーカー：今井ひなた（ルワンダ子ども支援基金担当）
参加費： ARC会員： 800円 学生・一般： 1000円
（ワンドリンク&岩手県陸前高田産りんごのケーキセット）

※ケーキの売り上げは、東日本大地震の被災地である岩手県陸前高田市にある障害者就労継続支援施設で働く障害者の方々へ直接送られます。



ルワンダ報告会のお知らせ

「ルワンダの今ー紛争後の和解促進へNGOが出来ることー」

1994年に起きた少数派ツチ族へのジェノサイドから18年。

現在、ルワンダでは二度とジェノサイドを起こさない為に、政府、民間組織、NGOなどあらゆるレベルでの民族同士の和解が進められている。しかし、政府によるトップダウンの政策のみでは、村に帰還した加害者と被害者の関係改善、被害者のトラウマの克服、ジェノサイド後に増加した孤児、また家族を亡くした者や未亡人の生活保障など国の再建の上で浮上する数々の問題に対処することが困難であり、民間組織、NGOによる支援が必要とされている。

今回は、ARCの支援先である孤児院「ギシンバメモリアルセンター」、低所得者（女性）への就労訓練、雇用促進を働きかけている「ARTCF」や、公衆衛生改善プロジェクトを視察、及びNGO「REACH」による和解促進プロジェクト「償いの家造り」に同行した。またその他、幼稚園の園長、労働組合のリーダー、他NGOスタッフへのインタビューも行なった。虐殺から18年、和解という困難な課題に人々はどのように向き合っているのか。そしてルワンダは紛争後のアフリカ地域におけるモデルケースとなりうるのか。現在のルワンダが直面する課題、NGOの役割を取り上げる。

*報告終了後、参加者の方々にルワンダが抱える問題についての解決方法を考えていただくワークショップを行います。参加者の方々同士で意見をシェアし、現場の状況を実際に感じてください。

アフリカ平和再建委員会 Africa Reconciliation Committee: ARC-JAPAN



〒160-0004 東京都新宿区四谷4-6-1 四谷サンハイツ511
Tel/Fax: 03-3351-0892 E-mail: headoffice@arc-japan.org
ホームページ <http://www.arc-japan.org>



ツイッター始めました！アフリカの紛争と平和に関するイベントや情報の発信をしています！

@ArcJapanNews どんどんフォローしてください！



フェイスブック始めました！
日ごろのARCの活動内容や、アフリカに関連するイベントや情報の発信をしています！

【ARCページ】

<http://www.facebook.com/ARCJAPAN>

このページに「いいね！」をお願いします。Facebook上で「シェア」して情報を広めてください！

